

エンジョイワーク・こころ 通信

〒184-0013 東京都小金井市前原町3-41-15 小金井市役所第二庁舎1階 2024年5月15日発行
小金井市障害者就労支援センター エンジョイワーク・こころ TEL 042-387-9866 FAX 042-380-7765 vol. 23
URL <http://www.e-w-cocolo.com>

エンジョイワーク・こころの 2024 年にむけて 所長 ポーバル聡美

開所 17 年目となる令和 6 年度は、4 月から民間企業 2.3%だった雇用率が 2.5%（常時労働者 40 人以上）で幕をあげ、企業の採用活動がより活発な印象です。個々に望まれる働き方や職務の内容によっても差はありますが、就労に必要な準備性が整っている方においては、早い時期に結果が出されていくように感じています。一方、相談に来られる方は年齢を問わず複合的な支援ニーズが感じられ、アセスメントや体験を積み上げていく支援に納まらない（望まない）方もいらして、昨年度は、登録者 185 名（25 名増）、内容別の相談件数 11,613 件（4,596 件増）という結果でした。働くまでだけでなく、働いた後も生活面の支援が必須という方の多かった事が伺えます。また、短時間での就労が雇用率の算定に入りましたが、より身近な地域で短時間働きたいという声も届いておりますので、誰もが安心して暮らし続けることができるという支援ニーズと就労支援センターの職務（障害者福祉と雇用施策が連携した施策による質の充実）との両輪とで職員一同、支援構築に取り組む予定です。 ※ 実績報告の相談件数は方法別の数値です



昨年の勤続表彰式

就労支援者連絡会報告

就労支援者連絡会では、小金井市内の障害福祉事業所が集い、講演会及び意見交換会、情報提供などを年 2 回行っています。

第 1 回 『障害者雇用の現状、法改正のポイント、合理的配慮について』

ハローワーク立川雇用指導官竹内氏を迎え、今年度からの障害者雇用に係る制度改正を踏まえた障害者雇用の現状や合理的配慮、またハローワークの役割などをお話いただきました。参加者からは「企業視点の障害者就労の知見が得られた」「ハローワークの役割が良く分かった」などの感想があり、大変充実した学びの場となりました。

第 2 回 『就労支援のこれからを考える』

武蔵野市の就労移行「ジョブアシストいんくる」の後藤施設長を迎え、市の取り組み、就労継続 B 型との連携事例などについてお話いただきました。また、小金井市内の B 型と当センターが関わった事例も紹介しました。「働きたい」と思う当事者の方の気持ちをどのように支援していくのか、今後の就労支援のあり方を含め参加者同士の活発な意見交換が交わされました。

2024年度事業計画

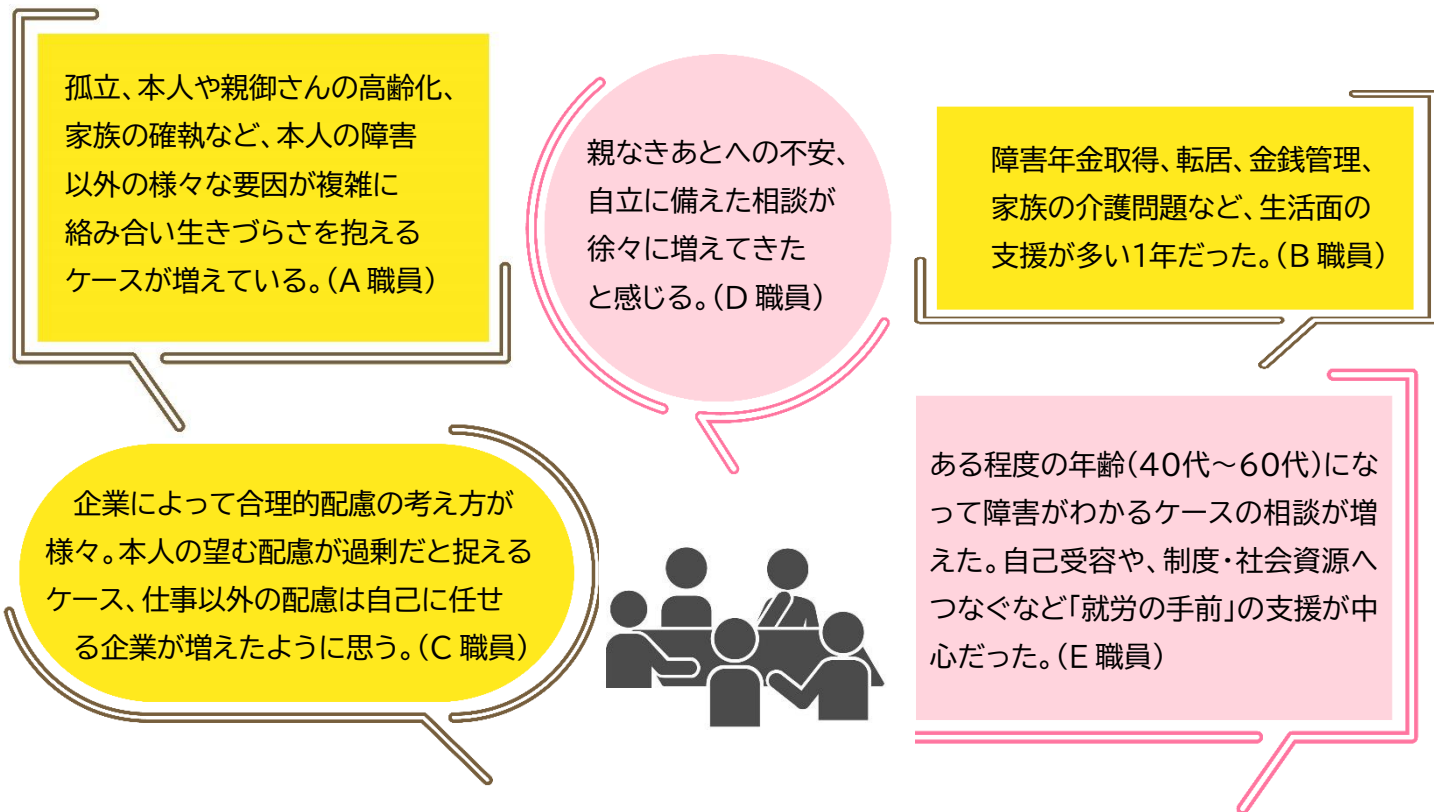
- 5月 第 1 回 どうの広場
- 7月 第 1 回 就労支援者連絡会
- 8月 第 1 回 こころの会
- 9月 第 2 回 どうの広場
- 10月 豊かな社会生活のための講座
- 11月 勤続表彰式
- 12月 第 3 回 どうの広場
「クリスマス会」
- 1月 第 2 回 就労支援者連絡会
- 3月 第 2 回 こころの会

「エンジョイワーク・こころ」の支援 近年の傾向と現状

コロナによる大きな社会の変容、障害者雇用を取り巻く状況の変化や法改正などの様々な要因によって、私達エンジョイワーク・こころの支援も「就労」にとどまらない多岐にわたる内容に広がっていると感じています。
この記事では職員からの聞き取りをもとに、この数年で増えてきた支援や代表的な事例から、就労支援の現状とこれからの課題について考えてみたいと思います。

職員にインタビュー！

Q1：このところの支援の中で、特に増えた、目立ってきたと感じる支援・相談内容は？



Q2：連携する関係機関は？

	支援内容	関係機関
就労	離・転職支援 復職支援 職場定着支援 就労アセスメント 障害受容支援 手帳取得支援	<ul style="list-style-type: none"> ・企業 ・ハローワーク ・障害者職業センター ・東京しごと財団 ・心身障害者福祉センター ・他市の就労支援センター ・職業訓練校 ・ジョブコーチ支援センター ・特別支援学校 ・就労系福祉サービス (移行・就 A/B・計画相談・市) など
生活	体調管理 障害特性、病識の受容支援 家族間の問題 (子育て・介護・確執など) 金銭管理、年金申請支援 生活困窮支援 転居・転出に伴う支援 生活の立て直し 自立・親なきあと支援	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・診療所・精神科デイケア・訪問看護ステーション ・家族 ・民生委員 ・グループホーム ・社会福祉協議会 (権利擁護センター/福祉総合相談窓口/居住支援相談) ・子ども家庭センター ・学校/教育委員会 ・包括支援センター ・フードバンク ・子ども食堂 ・社労士事務所 ・年金相談センター ・介護系福祉サービス (ホームヘルプ・計画相談・市) など

Q3：特に印象に残っている事例は？



失業、人生の転機、心身の不調が いっぺんに重なった A さん

就職準備、転居や生活の立て直し、持病の治療などが相次いで必要になった方でした。現在も自宅訪問や通院支援など、地域自立生活支援センターと二人三脚の支援が続いています。

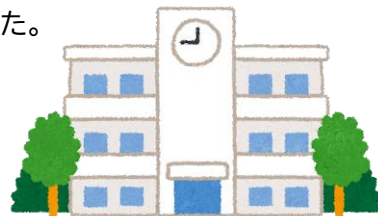
(B 職員)



軽度知的障害のシングルマザー B さん

子ども家庭センター、市、教育委員会、小学校、学童、民生委員、企業、計画相談など多くの関係機関と、母子の生活を支えていく連携の形を作っていました。

(A 職員)



ジョブコーチの導入で、職場の体制を 一から構築した事例

もともとは就労を目指していなかった特別支援学校卒の方と、障害者の受け入れが初めての職場。JC 支援の導入が雇用体制の確立、双方の理解促進や意識改革につながりました。(C 職員)



50代で手帳を取得。障害受容の難しさを感じた事例

失業後から支援がスタート。福祉サービス利用や年金申請が主でしたが、長い間一般雇用で働いてきた経験から実際の自分と折り合いをつけていくことの難しさを感じる場面が多くありました。

(D 職員)

障害者手帳

Q4：今後さらに必要とされる社会資源は？

地域の短時間就労の開拓が益々必要になると思う。

自立から結婚や出産、親亡き後、自身の老後まで、人生を生き抜いていく方法を学べる教育的な資源やサービスが必要だと思う。例えば障害者向けのファイナンス・プランニングや一人暮らしを練習できる場など。

A 型と B 型の間くらいサービスがあるといいのでは…。

結婚から子育てまでトータル的に支援する仕組みがあるといい。

高齢化した障害者の居場所や余暇活動

まとめ

ここ数年の支援の傾向として、就労にたどり着く前段階の様々な生活課題に対応した支援や、現状の制度やサービスの隙間を埋めるといった支援が増えてきているように思います。ニーズはより多様化・複雑化している中、従来型の支援（アセスメントから就労へ着実に積み上げていくかたち）から、公的サービスだけではない、多様な社会資源を活用し人と人とを繋げていく支援の構築が課題であると感じます。

コラム 障害者雇用施策の動きとこれからの障害者雇用

昨年末の厚労省の発表では雇用障害者数、実雇用率ともに過去最高を更新し、すべての産業別、企業規模別で前年を上回る結果となりました。特例子会社も増加し、障害者雇用は着実に進展し続けています。この4月からは民間企業における法定雇用率が2.5%に引き上げられ、所定労働時間が週10時間以上20時間未満の短時間就労も雇用率算定が可能となりました。(※) これからは地域の中で体調に合わせた小さな働き方、福祉就労との併用型など多様なニーズに合わせた就労のバリエーションが広がっていくことが期待されます。

雇用率は令和8年までの間に段階的に2.7%まで上がることが決定しており、各企業の障害者採用への動きは益々活発化するでしょう。また、障害者総合支援法では新たに「就労選択支援」サービスが創設されました。細かな制度設計や施行期日はこれからですが、このサービスによって働く意欲のある障害者の選択肢が広がり、福祉就労に固定化することなく意思決定の機会が増えることで、本来持っている「働く力」の掘り起こしが期待できます。これからの就労支援には地域に埋もれていた働き手と地域の働く場をつなぐことが重要な課題であると感じています。当センターでも地域の中にある短時間の働く場の開拓に向けて、商店会や商工会への働きかけ、地域のネットワークづくりに力を入れていきたいと思っております。

(※) 算定対象は精神障害者・重度身体障害者・重度知的障害者



研修参加報告



「ひきこもりケースへの基本的な支援」

ひきこもりとは、さまざまな要因によって社会的な参加の場面が狭まり、就学や就労などの自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態のことです。就学や就労をしても他者と交わらない形が続いていれば、ひきこもり状態と言えます。研修では本人や家族が直面している状態、基本的な対応方法などひきこもり支援に必要な方向性や視点、考え方を学びました。

ひきこもりは“生きるためのエネルギーを貯めている充電期間”と捉えることが大切だという言葉が印象的でした。エネルギーが溜まると自然と欲ができて現在の状態を変えるきっかけになる、決して焦らないことが大切だと強調されていました。「あなたのため」という家族や支援者の

思いが、本当に「本人のためだろうか？」

本人の求めていることだろうか？」

この視点を忘れずに、多様な

ゴールがあるなかで本人にとって

最適なゴールは何か、一緒に考えて

いくことが大切だと気づかされました。



昨年のクリスマス会

令和5年度 実績報告

新規 登録者 手帳別 (人)	身体障害	0
	知的障害	10
	精神障害(発達含)	23
	重複(知・身)	1
	手帳なし・他	0
	合計	34
新規 就労者数	一般就労	9
	福祉就労(A型)	1
相談件数(件)		8410